

2024年11月8日（金）

テーマ 岡本太郎美術館で芸術に触れる

けやき組 28名

生田緑地にある岡本太郎美術館にバスで出かける。事前に園で岡本太郎の作品やDVDを見て、どんな人なのか、どんな絵を描いたのか知っておく。美術館では2チームに分かれて学芸員の方の案内で、館内を周り、作品の説明を聞く。立体作品のコーナーでは画板を持ち、一人ずつ岡本太郎の作品のスケッチをする。

活動のために準備した素材や道具

リュック、お弁当、水筒、
画板、鉛筆、レジャーシート、
カメラ、iPad、パンフレット、
岡本太郎のDVD資料、携帯電話、
救急セット



活動の内容

8:50 バス乗車

9:45 生田緑地 到着

10:00 岡本太郎美術館 母の塔 集合

2チームに分かれてガイダンス

母の塔→館内へ行くチーム

館内→母の塔を見るチーム

10:45 2チームに分かれてスケッチ

11:00 エントランス集合 バス乗車

12:00 園到着 かしのみ公園にて昼食



バスに乗り込み、岡本太郎美術館にいよいよ出発です。すでにDVDを見たり、事前のセッションで「岡本太郎」という画家について話をしていた子どもたち。子どもたちへの熱い思いがあった岡本太郎。子どもに関わる仕事の依頼は断らなかったこと、子どものための作品もたくさんあることを学び、「太郎さん」と親しみを込めて呼んでいます。バスの車内では「岡本太郎クイズ」を楽しみました。

バスを降りて生田緑地の中を岡本太郎美術館まで歩きます。長い階段をのぼると、その先にはさまざまな彫刻が。早速学芸員の方に挨拶をし、2チームに分かれて作品や岡本太郎という画家の説明を聞きます。事前に少し話を聞いていたことで、子どもたちの興味は高まっており、話をしっかりと聞く様子がありました。

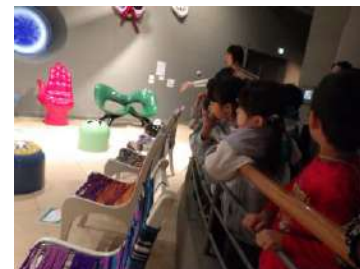
館内に入ると、大きな作品に圧倒されます。「この中に顔がいくつもあります」「どこに人がいるかな」学芸員の方の問いかけに、絵をじっと見つめ、「ここじゃない?」「これは何?」と友達同士、声を掛け合いながら作品をじっくりと見つめます。

「座ることを拒否する椅子」というコーナーでは実際に椅子に座ることができました。いろいろな形の椅子に座って試してはどんな感じがするか、伝えます。

作品鑑賞の終わりには、岡本太郎の作品をスケッチ。自分で好きな作品を選び、自由に筆を走らせる姿がありました。じっくりと一枚を仕上げる子もいれば、次から次へと描いていく子も。短い時間ではありましたが、普段とは違うモチーフを前に、新しい経験を楽しむことができていました。

保育者の気づき

日常的に作品作りを楽しんでいる子どもたち。岡本太郎の大胆な色使いや、見たことのない形の彫刻を面白がって、デッサンを描く姿は生き生きとしていました。園に戻ってからも、思い出しながら作品の絵を描く子もいて、普段とは違う活動に心が動いたことがわかります。11月下旬のこども美術館に向けて、どんな思いで描くのか、どんなモチーフを描くのか、一人ひとりが感じたことを作品に生かしていけるといいなと思いました。



2024年9月24日（火）
11月5日（火）

テーマ 自然物でタペストリー作り

つばき組 かえで組 けやき組 15名

アーティストのほのこさん、みきさんと一緒にしぜんの国の周りの豊かな自然を取り入れながらタペストリーを作るワークショップ。園庭やお寺の森で、作品に使う自然物を集めるところから、ワークショップが始まります。

活動のために準備した素材や道具

画板、鉛筆、クレヨン、ペン、ボンド、布、キャンパス、羊毛、毛糸、ハサミ、カメラ、iPad

活動の内容

9:30 素材探し

園庭、お寺の森

10:00 園に戻り、作品作り



「ここに貝殻があるんだよ、大人の貝殻はとってもいいけど、赤ちゃんのはだめ」「いい匂い。ミント見つけた」自分たちのフィールドで、ものづくりに使えるものを探しながら様々な出会いがあります。

心が動いた自分の「好き」が作品になることを想像しながら、一つずつ集めていく子どもたち。「この葉っぱもいいね」「赤とか黄色に変わってきてる」「見たことない実がある！」自然の素材に触れて眩きが生まれてきます。室内に戻り、キャンパスとなる布に、自然物と柄の入った布や羊毛を組み合わせしていきます。

自分の中のイメージが形になっていくとともに、友達のキャンパスの変化に興味を持って見つめ、刺激を受けます。自分だけの「こうしたい」が様々な素材に触れ、広がっていききました。

最後には是非やってみたい、とけやき組（5歳児）の子どもたちが針と糸での裁縫にチャレンジ。なみ縫いや返し縫いに「これやったことあるよ」「大変だね」と充実した表情で取り組みます。

2回のワークショップを通じて一人ひとりの作品が出来上がりました。ほのこさんとみきさんが一枚の大きなタペストリーにしてくれて、こども美術館で飾る予定です。

保育者の気づき

以前から布やハサミで洋服を作ったり、自然物を使って表現することが好きな子どもたちが多かったので、今回はそんな子どもたちが存分に楽しむことができるワークショップでした。

小グループでの活動だったので、普段では難しい縫い物にも挑戦することができ、子どもたちのやりたい気持ちを叶えることができました。普段から親しんでいる自然物と、目新しい素材との出会いが面白く、それぞれに個性的な作品が出来上がっていききました。



2025年2月20日（木）

テーマ 光を透かして感じよう

すみれ組 10名

新しく保育園に届いたライトテーブル。室内を暗くし、大きくて丸みのある柔らかな印象のテーブルに、2歳児クラスの子どもたちと一緒にセロファンや自然物を載せて、光の通り方を見てみることにしました。

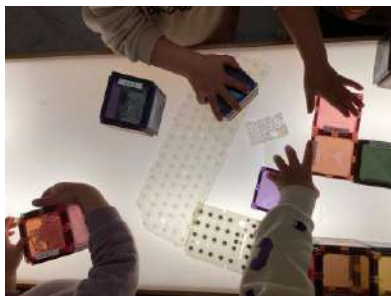
活動のために準備した素材や道具

ライトテーブル、セロファン、自然物、透明なブロック、カメラ、ipad（記録用）

活動の内容

すみれ組（2歳）の子どもたち10名。

ライトテーブルに光をつけ、様々な素材を選びのせていく。



保育者が用意したセロファンは普段あまり馴染みのない素材。綺麗に光が透る様子を「きれいだね」と感じたり、セロファンを重ねると色が変わることに気づき、「黄色と青で緑になったよ」と伝え合う姿がありました。普段使っているおもちゃの中からも光を通すものを探し、ライトテーブルの上で遊ぶと、いつもとは違った面白さがあることに気づきます。「おうちみたいだね」「中が光っているね」という呟きが聞こえてきました。日中拾ってきた自然物をのせ、「これは光らないね」と違いに気づき、光るものの上に自然物をおくと、コントラストがはっきりとして、その見え方を楽しむことができました。また、光だけではなく影にも気づいた子もいました。物を置くと暗くなることの面白さも感じることができました。

保育者の気づき

光が透ることの不思議を感じ、セロファンを重ねると色が重なり合って濃くなっていくことを面白がっていた子どもたち。日常と少し違う感覚をじっくりと味わうことができていたように思います。



2024年3月27日（木）

テーマ 身近な素材を使って草木染めをする



けやき組 7名

身の回りの自然物や、普段だったら破棄されてしまう選定された木々を使い、草木染めを子ども達と体験する。

鉄・アルミニウム・銅など、媒染液によって色の変化が見られることで科学的な好奇心も感じられるように準備する。子どもたちにとっても、「染め直す」という再生・循環の感覚も感じられるようなプログラムにする。

活動のために準備した素材や道具

講師料 (wuy 2名) レモンの木と葉 ローズマリー
桜の木の枝 石 松ぼっくり 木のみ

活動の内容

- | | |
|-------|----------------|
| 8:30 | 職員準備 |
| 9:00 | 講師来園・随時準備 |
| 10:00 | 園児が集まる |
| | 草木染めの説明、媒染液の説明 |
| | 体験 |
| 11:30 | 染める |

とうきょうすくわくプログラム



出会った植物、また落木の伐採の際出会った、桜の木や、ローズマリー、フェイジョア、レモンなどの葉や枝を拾った。「嗅いだことのある匂い」「美味しい匂い」嗅覚や視覚、五感を使った時間。



園庭での植物を採取。日々過ごす自然の中で素材と出会い、染められそうなもの、また、飾りや絞りに使えそうなものと出会う。素材は買うものではなく、見つけるもの、出会えるもの。



保育者の気づき

日々の暮らしの中にある、身近な自然物の力や、染めの媒介液による化学反応を感じ、知ることができた。染色液の香り、色彩、また色の変化、素材の出会いから染めまで、一連の「草木染め」の体験から、五感を使った探求の時間になった。色の変化を見たときの子どもたちの表情が驚きに満ち溢れていたことが印象に残っている。

